



啓北だより

旭川市立啓北中学校

特別号

令和5年12月25日

～ 自らの課題に対し、自らの力と学び合いを通して解決し、自己表現する ～

全国学力・学習状況調査結果より

全国学力・学習状況調査は、①「児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育の成果と課題を検証して改善を図る」②「学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善策に役立てる」ことを目的とし、全国の小学6年生、中学3年生を対象に、毎年実施されております。本校では、お子さまの学習及び生活状況の把握・分析を通して、今後の授業改善や生活指導等に生かしていくとともに、分析結果をご家庭や地域へ発信することにより、お子さまの様々な資質・能力を、家庭・地域のご協力を得ながら育みたいと考えております。



1 国語科における学力の傾向と分析

- 歴史的仮名遣いなどの言語知識が定着しています。
- 本文を読み取り、自分の意見について、まとまりのある文章を書く力はおおよそ定着しています。
- 具体と抽象など、情報の関係に注意して読む力は一定程度定着しています。
- ▲ 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめる力は若干不足しているため、おおよその内容は理解できても適切に問題に答えることができていない様子が見られました。
- ▲ 漢字の読みや語句の意味などを理解する問題は適切に答えられていない様子が見られます。

【今後に向けて】

- ・ 漢字や語句については、基本的な意味や文中での意味など、状況に応じて使い分けの力を定着させるために、文学作品の単元を中心に、知識技能が高まるよう取り組んでいきます。
- ・ 論説文や話し合いを中心に情報を読み取り、目的に沿って文章を作るための知識が深まるよう指導していきます。

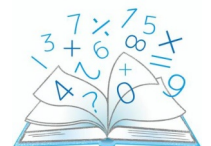


2 数学科における学力の傾向と分析

- 数と整式の乗法の計算では、正答率が8割を越えています。このことから、基本的な計算は身に付いていると考えます。
- 問題場面における考察を、明確に捉えることができるかどうかを見る問題では、正答率が8割を越えています。このことから、問題の意味を理解する力はある程度身に付いていると言えます。
- ▲ 累積度数の意味を理解しているか問う問題では、正答率が3割程度となっています。このことから、データの傾向を捉え、分析していく力が不十分と言えます。
- ▲ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかを確認する問題では、正答率が3割程度になっています。このことから、自分の言葉で表現し、説明していく力が不十分であると考えられます。
- ▲ 条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読みとることができるかを問う問題では、正答率が3割程度になっています。このことから、条件を変えた場合など、応用問題に対応する思考力が身に付いていないと考えられます。

【今後に向けて】

- ・ 1年時、および2年時に学習した内容を忘れてしまっている生徒が多く見られたため、定期的に復習する機会を取り入れたり、既習内容を振り返りながら授業を進めていきます。
- ・ 生徒の思考力、判断力、表現力を一層高めるために、言語活動を取り入れた授業を意識し、生徒が自分の考えを他者に伝える場面を設定していきます。



3 英語科における学力の傾向と分析

- 「聞くこと」に関しては、約6割の正答率となり、情報を正確に聞き取る力はある程度身に付いているものと考えられます。
- 短い文章の概要を捉える設問では、約7割の正答率となり、一語ずつの正確な意味はとれていなくても、内容や文の構成などを自分なりに解釈して読み取ろうとする力が付いているものと考えられます。
- 全体を通して、無回答率が低く(1%未満)、諦めずに問題に取り組む姿勢が育っています。
- ▲ ある程度の文量を求められる記述式の設問では、冒頭の英文は書けるものの、その後続く、理由や根拠などを付け加えることに課題が見られます。
- ▲ 記述式の問題では、基礎的な文法事項について定着が見られない回答が多くあり、特に疑問詞を使った文や依頼する表現などの文の組み立てに課題があります。



【今後に向けて】

- ・ 文法の基礎基本の定着に課題が見られます。文法事項のていねいな反復練習や状況に応じた多様な表現方法に触れる学習を継続して行っていきます。
- ・ 自分の考えや意見がある程度まとまりがある文章で表現できるようになるために、短い文からまとまりのある文章まで段階的に表現力が高められるよう指導していきます。
- ・ 自分の考えや意見に自信をもって表現するために、様々な表現方法や発表の場を設定し、お互いを認め合いながら表現活動に意欲をもって取り組めるよう指導していきます。



～各教科の分析結果より～

国語、英語については、全国平均を上回っておりますが、数学については、若干全国平均を下回りました。日頃より真剣に授業に取り組み、目標をもって学習(復習)を継続している結果と考えられます。各教科共通の特徴として、知識・理解を求める問題については正答率が高く表れていますが、事象について文章で説明する力がやや不足している傾向にあります。昨年同様、学習指導要領における3つの観点(【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】)においては、特に思考力・判断力・表現力における資質・能力の育成が一層図られるよう、授業改善や学習支援を進めていきます。



生徒質問紙より(主な質問項目に対する回答)

※「している(そう思う)」「どちらかといえばしている(どちらかといえばそう思う)」等と回答した生徒の割合

- (1) 朝食を毎日食べていますか(90.0%)
- (2) 毎日同じくらいの時刻に起きていますか(87.1%)
- (3) 学校に行くのは楽しいと思いますか(68.5%)
- (4) 自分には、よいところがあると思いますか(70.0%)
- (5) 家で計画を立てて勉強していますか(47.1%)
- (6) 平日、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか(2時間以上 20.0%)
- (7) 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか(ほぼ毎日 31.4% 週3回以上 42.9%)
- (8) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか(97.2%)
- (9) 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか(80.0%)
- (10) 学級の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか(75.8%)
- (11) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか(100%)



～生徒質問紙の結果より～

生徒質問紙の(1)(2)については、全国平均並の数値です。本校生徒は概ね、規則正しい生活習慣が身に付いている様子がうかがわれます。(3)(4)について、子どもたちの自己肯定感がさらに高まるよう、授業や学校行事、委員会活動等において、一人一人を「伸ばす教育」の充実に努めてまいります。学習については、家庭学習の習慣を定着させることが、各学年の課題となっております。学校では、家庭学習に係る継続的な指導を実践していきます。ICTに関しては、授業の中で効果的に活用できる状況になってきております。「いじめ」問題については全校を上げて、「いじめのない学校」への取組を継続していきます。

